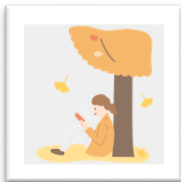


図書館だより 11月号

川之石高校図書委員会



今年は、例年よりも少し「秋」の季節が長いように感じます。心地よい秋を肌で感じながら、ブランケットと一冊の本をもって公園にでも出かけて読書に親しみたい気候ですね。ゆったりとした気持ちで、お気に入りの本の世界に浸ってみませんか。ミステリー、SF、恋愛、友情、今、あなたの気持ちにきっと寄り添う一冊が図書館にはありますよ。

〔芸術科 松岡小温 先生〕



私は書道で作品をつくる際、文字や詩文の意味を解釈し、自分で物語を付け加えながら表現していきます。そこで必要になってくるのは想像力です。本を読むときは、自然と頭の中で文章を映像化していきます。その力を作品制作でも活かすことができていると思います。文字や詩文の意図を捉えて、「このときはこんな状況だったのだろう」と想像しながらそれをどう表現しようかと探るときが書道の楽しい時間です。小さい頃に読んでもらった絵本や朝読の時間に読んだ本がそのような時間を支えてくれているのだと思います。

最近は標野凧さんの『今宵も喫茶ドードーのキッチンで』を読みました。この作品は私たちと同じくコロナ禍を生きる人々が主人公です。店主の深い意図が込められた料理と言葉によって主人公の心が満たされていく様子にとっても温かい

気持ちになれます。タイムリーなテーマばかりなので共感できる部分も多いと思います。ぜひ読んでみてください。



〔図書委員お薦めの本〕『吸血鬼文学名作選』 東 雅夫著

3-2 東海林 茉莉

この本は、吸血鬼に関する様々な小説を集めた話になっています。外国の話を翻訳したものや、作者が考えた話など、同じ「吸血鬼」を題材にしても全く違う物語を楽しむことができます。

一つ一つの話が、比較的短いので、誰にでも読みやすくとてもおすすめです。

また、「吸血鬼」を題材にしていますが、あまり怖くもなく、どこか不思議な感じがする話が多いのも面白いと思ってもらえると思います。

詳しい本の内容は、読んでからのお楽しみということで・・・。

作家の中には、『羅生門』でおなじみの芥川龍之介さんの作品も掲載しているので、興味のある人はぜひ読んでみてください。



〔新刊図書紹介〕



『マンガでやさしくわかる傾聴』 古宮 昇 著

福祉や医療、教育の現場はもちろん、普段の生活における周囲とのコミュニケーションで大切になる「聴く技術」と、その前に知っておきたい人間の心理をマンガのストーリーと解説で学ぶことができます。

主人公は、市役所に勤める二階堂いずみ。新しく開設された部署「耳かたむけ課」に異動になり、市民たちへの対応に悪戦苦闘の日々を送っていましたが、風変わりな市長に「傾聴」の大切さについて教えるうちに、市民だけでなく、家族を含めた周囲との関係が変わっていく様子を描いています。

福祉や保育、看護師、教師を目指す人には一度は読んでもらいたい一冊です。

『風刺画が描いた JAPAN 世界が見た近代日本』 若林 悠 編著

まだ写真が一般化していない時代に、世相をわかりやすく伝え、社会に問題を投げかける一つのツールとして「風刺画」はあった。風刺画を通して、黒船来航から太平洋戦争勃発までの近代日本の歴史を、また他国の人々が日本という国をどのように見ていたのかを知ることができる一冊。歴史の見方が変わるかもしれません。



〔10月 月間図書貸出冊数〕

〈クラス別〉

10月1日～10月31日

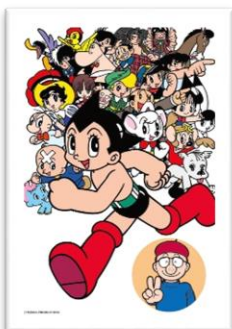
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
6冊	1冊	4冊	0冊	1冊	6冊	7冊	14冊	11冊

〈個人別〉

1位 10冊 (3-2) 東海林 茉莉

2位 7冊 (3-1) 菅原 璃空

2位 7冊 (3-3) 前田 結衣



君たち、漫画から漫画の勉強をするのはやめなさい。一流の映画を観ろ、一流の音楽を聞け、一流の芝居を見ろ、一流の本を読め。

そして、それから自分の世界を作れ。

(手塚治虫 漫画家)

